

障がい者福祉サービスなどを手がける、Notoカレッジ(本社大垣市高屋町、辻雅靖社長、電話0584・77・7631)は、障がい者の就労と生産の機会を提供するため、輸入コーヒー豆の麻袋を再利用した「手づくりトートバッグ」製作販売事業を始めた。自社企画のオリジナル

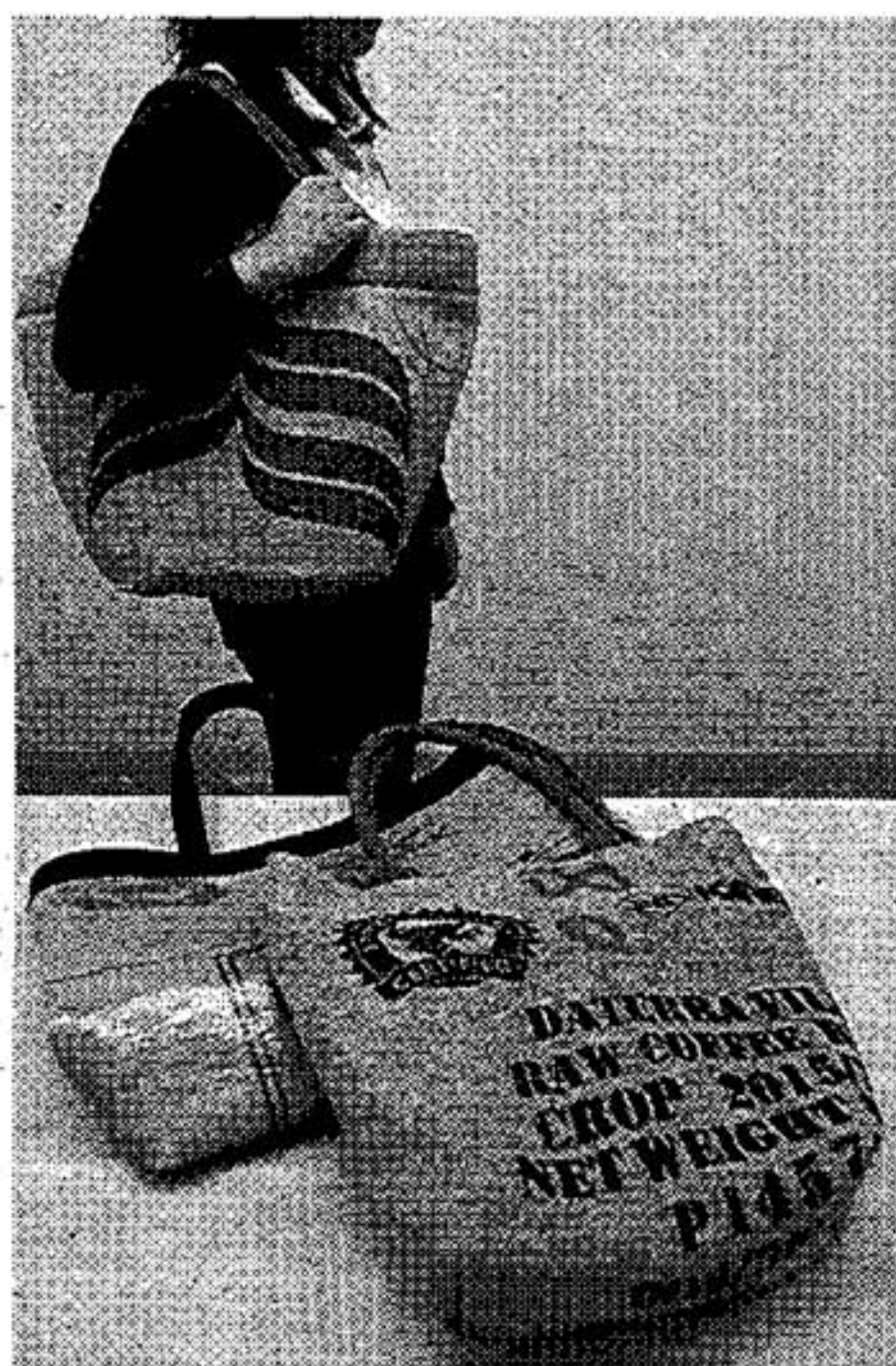
ブランド「NNews」を立ち上げ、コーヒー専門店や雑貨店のほか、EC(電子商取引)サイトなどに販路を拡大する計画。障がい者が安定的に就労継続できるビジネスモデルを構築する。(大垣)

Notoカレッジ

コーヒー豆麻袋でトートバッグ

障がい者の中でも、体調や

業務内容などにより雇用契約が困難な人に対して、就労の機会と生産活動の場を提供する「就労継続支援B型事業」の認可を7月に受けて実施す



輸入コーヒー豆の麻袋の天然素材感と表記デザインを生かした「トートバッグ」

障がい者に就労の場

ネットでビジネスモデル構築へ 販路開拓

の洗いやアイロンがけ、裁断など前工程を中心に行う。

当初は、特別支援学校などの授産施設へ縫製工程を委託して地域との連携を進めるほか、同事業所内でも縫製設備などを設けて内製化し、雇用契約による一般就労への移行をめざす。

また、トートバッグは、コーヒー自家焙煎(ばいせん)喫茶店などで販売し、麻袋のリユース需要を開拓する。このほど桑名市内のコーヒー専門店でテスト販売したところ、試作品10個を完売した。

天然素材の麻袋を使った

丈夫なハンドメイドのトートバッグは、豆の原産地によって表記文字などデザインが多様でオリジナル性が高く好評。すでに雑貨専門店など約10店舗から販売の引き合いがあるという。

同社では今後、「NNews」のブランドでトートバッグをシリーズ化し、大中小の3サイズで展開する計画。価格は4800円から。また、皮革による補強や防水仕様のコーティングなど、オーダーメイドにも対応していく。

まず、岐阜、三重、名古屋のコーヒー専門店3店舗で販売を開始するが、9月にもECサイトを立ち上げて、全国的に販路開拓を進める計画。受注生産体制を整えて、障がい者の就労機会と生産活動の拡大を図っていく考えだ。